

doc-ja 版 OSC 2011 Nagoya 観光ガイド (仮)

これは何か？

OSC 参加者の皆さんに、身近なソフトウェアの翻訳に関心を持ってもらいたいという考えのもと、翻訳プロジェクトの紹介をするものです。

OSC 2011 Nagoya の出展団体のうち、対象とするソフトウェア等に翻訳の取り組みが存在するものを紹介しています(必ずしも、出展団体が直接翻訳に関わっているわけではありません)。

Doc-ja Archive Project は翻訳プロジェクト間での情報共有をする場ですが、個々の翻訳プロジェクトに関する情報がほとんどない状態です。ということで、doc-ja ML, osc members ML での情報提供依頼、関係者へのヒアリング、および WWW での情報収集を実施しました。実線で囲んだ部分はメールで提供された情報、破線で囲んだ部分はヒアリングした情報です。

OSC 2011 Nagoya 開催直前に作業をおこなったため、各プロジェクトや doc-ja メンバーによるレビューなどはしていません。掲載漏れや誤りなど、お気づきの点があればお知らせください。

情報提供のお願い

OSC 出展団体に限らず、各種翻訳プロジェクトに関する情報を収集したいと考えています。

翻訳プロジェクトの活動状況等に関する情報をお持ちの方がいらっしゃれば、お知らせください。そのまま掲載可能な紹介文をいただける場合は、改変や再配布が自由におこなえるライセンス (ガイド全体を CC BY-SA 3.0 Unported で配布したい) の下で提供いただければ大変ありがたいと思います。

Doc-ja Archive Project について

Doc-ja Archive Project は、ソフトウェアのマニュアルなどの技術文書を日本語に翻訳する作業を行なっている人々に対して、情報交換の場を提供することを目的としたプロジェクトです。

現在、オープンソースソフトウェアの開発プロジェクトで行なわれている各翻訳プロジェクトに代表されるように、大小さまざまな翻訳プロジェクトが存在します。こういった翻訳プロジェクトにおいては、ボランティアによる作業が中心となるため、成果物の管理や用語の統一問題など、翻訳作業そのものよりも文書管理の負担が大きく、規模が大きくなればなるほど、維持することが大変になります。

さまざまな工夫により、その管理の効率を向上させたり、翻訳作業を簡単にできるようにしているプロジェクトもあるのですが、ソースによって技術が流通するソフトウェア開発と異なり、翻訳作業の場合、あるプロジェクトにおけるノウハウを、他のプロジェクトと共有する機会がありません。そのため、いわゆる「車輪の再発明」が頻繁に行なわれている現状があります。

このプロジェクトは、翻訳に興味のある個人、個々の翻訳プロジェクトで活動されている方々などの間で、特定の翻訳プロジェクトに属さない立場での交流の場を提供するものです。また、「個人的に技術文書を翻訳した／ているけど、公開場所や保守に困っている」という方や、「翻訳を補助するツール、フレームワークの開発に興味がある」方も、ぜひこのプロジェクトへ参加ください。

2011/8/20 Doc-ja Archive Project 岡野

OSC 2011 Nagoya 出展団体と、関連がありそうな翻訳プロジェクト

Blender User Group of Japan

Blender [アプリケーションソフト、3Dグラフィックス]

「BLUG.JP の目的に」に「より良い Blender ライフのための企画、活動」があり、「海外の Blender 関連のニュース、リリースノートの翻訳などがあげられますが、すでに Blender.jp などで行なわれているものへの協力を指します。」とされている。

blender.jp には、ドキュメント翻訳プロジェクト(JBDP)があり、LaunchPad および PukiWiki (原文は MediaWiki) を使って翻訳作業をしている。

<http://f11.aaa.livedoor.jp/~hige/>

以下、OSC 2011 京都でのヒアリング結果

「ユーザーグループとしての翻訳プロジェクトというようなものはなく、個人として JBDP に参加する形。」

concrete5 名古屋

concrete5 [CMS]

Usagi Project (linux-ipv6.org とは無関係) で、concrete5 日本語版の翻訳をしている。

2011 年 7 月、KatzUeno さんが、世界での翻訳リーダーになった。Ustream 動画「週刊 concrete5」に翻訳を扱ったものもある。

メッセージカタログは PO で、myGengo を使って翻訳する。

<http://mygengo.com/string/p/concrete5-1/>

以下、OSC 2011 京都での concrete5 関西ユーザーグループへのヒアリング結果

「動いているのは実質 5~6 人、OSS CMS の翻訳は、翻訳だけで完結するわけではなく、翻訳しながらソースを直したりしている。gettext を使っていて PO ファイルを直接編集している。gettext() をかましていないメッセージがけっこうある。ふつうにマルチバイト文字を通したらおかしくなるところを発見するとかもある。これらはソースを修正してもらっている。翻訳が難しいのは、英語と日本語で文法が違うのに文の中でメッセージが切られているところ。これは修正してもらわずに、無理やり翻訳している。あとは、デフォルトのコンテンツというのがあるが、文化ごとに言い回しが違ったりする。」

Eject コマンドユーザー会

Eject [ガジェット]

Eject コマンドの配布物には日本語メッセージカタログが含まれているが、内容が古い。Last-Translator の方のメールアドレスは現在届かない。

オンラインマニュアルは JM プロジェクトによる翻訳が存在する。最新リリース版である 2.1.5 ま
で追従済み。

<http://linuxjm.sourceforge.jp/INDEX/linux.html#eject>

Linux-HA Japan Project

Pacemaker[その他/高可用ソフト]

以下、OSC 2011Kansai@Kyoto でのヒアリング結果

```
┌───────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┐
│ Pacemaker のメッセージ翻訳をやっている。PO ファイルで、一人でやっている。      │
│ それ以外に、Pacemaker のドキュメントの翻訳もいくつかやっている。こちらは DocBook │
│ などで、OmegaT を使ってやっている。成果物は Linux-HA Japan のページにある。    │
│ http://linux-ha.sourceforge.jp/wp/manual │
│ いい作業方法が確率されておらず、けっこう力技でやっている。次のバージョンの翻訳とか、 │
│ アップデートが追いついていない。                                              │
└───────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
```

MeeGo ユーザー会

Meego[デジタル家電・携帯機器プラットフォーム]

Transifex | MeeGo Translation Project
<https://meego.transifex.net/>

Localization team - MeeGo wiki
http://wiki.meego.com/Localization_team

Nagoya.pm

Perl[言語]

以下、OSC 2011 Tokyo/Spring にあわせメールで提供された情報

プロジェクト名称

Japanized Perl Resources Project

URL

<http://perldocjp.sourceforge.jp/>

翻訳対象

Perl 本体やディストリビューションなど

翻訳対象ファイル形式

po ファイル

参加したい場合の連絡先

メーリングリストでの参加表明など

ちょっとした誤訳の指摘をするときの連絡先

メーリングリストか SourceForge.JP のチケット

問題点

最近はアクティブな人が少なめ

欲しい人材

翻訳や査読をしてくれる Perl 使い

OpenStreetMap 東海

OpenStreetMap [フリーコンテンツ作成]

<http://wiki.openstreetmap.org/wiki/JA:Index>

JA:Index

OpenStreetMap Wiki (MediaWiki) の翻訳

以下、OSC 2011 京都での Open Street Map Japan へのヒアリング結果

ドキュメント翻訳は MediaWiki でやっちゃっているんで、面倒くさいということはない。

もちろんソフトの翻訳もあって、PO ファイルを直接編集して面倒 (そこまでやろうという人は意欲があるので、デベロッパチームに入ってやっている。一般の人が入る領域ではない)。

あとは訳語の統一とか。地図とか地理とか独特の用語があって、そういうのがちょっと、みんなが思い思いにやっていることが多い。

OSM の場合は、翻訳パーティーをやろうかって話している。

Python 東海

Python[言語]

日本 Python ユーザ会に翻訳プロジェクトがあり、メーリングリストで活動している。

sourceforge.jp の基盤を利用していたが、2010 年末から Google code へ移行している。

Python ドキュメント翻訳プロジェクト
http://www.python.jp/zope/pythondoc_jp/

Ubuntu Japanese Team

Ubuntu [Linux ディストリビューション]

<https://launchpad.net/%7Eubuntu-110n-ja>

Ubuntu Japanese Translators

(LaunchPad)

翻訳に関する説明などは以下にある。

翻訳ガイド (アプリケーション編) - Ubuntu Japanese Wiki
<https://wiki.ubuntulinux.jp/Develop/TranslationGuide>

Launchpad 上で翻訳を行うには - Ubuntu Japanese Wiki
<https://wiki.ubuntulinux.jp/UbuntuTips/Participate/TranslateOnLaunchpad>

以下、OSC 2011 Kansai@Kyoto でのヒアリング結果

Fedora や GNOME など、翻訳の上流が複数あり、カタカナ語の長音符のポリシーなどが異なるため、統一に苦労している。

上流からもってきた翻訳に問題がある場合、Ubuntu 側でなおしただけでは、上流が更新されたのを取ってきたときに上書きされちゃうので、上流にフィードバックしている。

WordPress 地域コミュニティ WordBench 名古屋

WordPress [CMS]

以下、OSC 2011 京都での、WordPress 地域コミュニティ「WordBench 京都・滋賀」へのヒアリング結果

WordPress 日本語版作成チームが Google Group にある。メーリングリストで活動しており、リリース前にはそこそこ活発。

登録者は 30~40 人はいるが、手を動かしているのは 4~5 人くらい。

年 2 回ぐらいメジャーリリースがある。メジャーリリースごとに翻訳リリースリーダーが決められ、リーダーがほとんどの作業をする。なるべく負担を集中させないようにするため、4~5 人くらいで持ち回りで担当している。

gettext のメッセージを、pootle のような「GlotPress」という web システムで翻訳している。

<http://blog.glotpress.org/>

<http://translation.wordpress.org/>

WordPress 3.2 の新機能で Ephemera widget というのがあり、どう訳すかが議論になった。「エフェメラウィジェット」とは何を指すかわからず、「カゲロウ」「ちらと出すウィジェット」「小さい付箋」「一筆啓上」「短信」といった案が出たがどれもなんか違う。「短冊」でいいや、と決定した。

<http://ja.wordpress.org/2011/07/11/ephemera/>

今回妥協したものは「アサイド」。「小ネタ」では軽いと考え「アサイド」にした。

今時の web 用語は翻訳が難しい。こういった業界で新しい言葉は、他の翻訳プロジェクトも巻き込んで検討すると、時間はかかるがいい訳語が出ると思う。doc-ja で新しい言葉の訳語を決めるといふのをやるといいと思う。

XOOPS Cube 東海

XOOPS Cube[CMS]

XOOPS Cube Project Forum - Developer Talk (開発者の話し合い)

<http://sourceforge.net/apps/phpbb/xoopscube/viewforum.php?f=15>

特定非営利活動法人 OpenOffice.org 日本ユーザー会

LibreOffice [デスクトップアプリケーション]

以下、OSC 2011 京都での関西 LibreOffice 勉強会へのヒアリング結果

pootle でやっている。アクセス権限があるメンバーを追加する権限を持っているのが2名、コミット権限を持っている人が5~6人。

LibreOffice の翻訳は OpenOffice.org 3.3 の段階の翻訳をまるっと引き継いでいる。3.4 では追加機能の新規翻訳をしているが、今後、新規機能の翻訳をするほかに、OpenOffice.org から引き継いだ訳の修正も同時並行でやっている。

既存の訳にひどい訳がたくさんあり、誰かが見つけてメーリングリストに投げると、ひとつひとつ議論しながらやっている。

LibreOffice は毎月リリースしており、3.4.1 から 3.4.2 の間にあった修正は、たとえば、Writer の「ツール」→「オートコレクトオプション...」にある「ワードコンプリーション」という翻訳がわかりにくいことから、3.4.2 からは「単語の補完」に変更した。

こういう修正をちくちくちくちくやっている。これが積み重なれば、すごい使いやすくなるはず

関西ウィキメディアユーザ会

WikiMedia [集合知・自由な知]

以下、OSC 2011 Tokyo/Spring にあわせメールで提供された情報

プロジェクト名称

translatewiki.net

URL

<http://translatewiki.net/>

翻訳対象

MediaWiki (ウィキソフトウェア)、FreeCol (ターン制戦略ゲーム)、OpenStreetMap (自由に編集可能な地図)、StatusNet (マイクロブログサーバー) ほか多数

翻訳対象ファイル形式

翻訳作業はウィキ上 (オンライン) で実施。ただし.po でダウンロードして翻訳して、アップロードも可能。

参加したい場合の連絡先

<http://translatewiki.net/wiki/Special:FirstSteps> から参加登録。

ちょっとした誤訳の指摘をするときの連絡先

http://translatewiki.net/wiki/Portal_talk:Ja へ書き込むか、翻訳登録をして自身で修正。

問題点

参加者が MediaWiki の翻訳、それもウィキメディアの利用者に偏っており、多様な視点からの意見が出にくい。品質管理がない。

欲しい人材

ウィキでの編集に問題ない方 (自分の成果物も容赦なく変更される、必要と思ったことは誰かに頼むではなく自分でやる、初心者も熟練者も平等に扱われる、など)

プロジェクト名称

メタ・ウィキメディア日本語翻訳プロジェクト

URL

http://meta.wikimedia.org/wiki/Translation_requests

翻訳対象

Wikimedia プロジェクト公式サイトメッセージ

翻訳対象ファイル形式

MediaWiki 記法のテキスト

参加したい場合の連絡先

translators-l@lists.wikimedia.org に subscribe,

ただし必須ではない. meta.wikimedia.org にアカウントを作成(通常は ja.wikipedia.org と共通))

ちょっとした誤訳の指摘をするときの連絡先

・財団サイト(wikimedia.org)については

Wikimedia website feedback

http://meta.wikimedia.org/wiki/Foundation_wiki_feedback

・meta.wikimedia.org 上の MediaWiki ページについては, それらの「トーク」ページ
(以上, 公開連絡先)

translation@wikimedia.org (非公開)

問題点

翻訳依頼が急に来る. 短納期. Wikimedia Project が分かってない人が翻訳するとちんぷんかんぷんな内容になることがある.

欲しい人材

自然な日本語が書ける人. ある程度 Wikipedia の仕組みが分かっている人だとなお良い.
meta.wikimedia.org は誰でも編集できます!)

日本 GNOME ユーザー会

GNOME [デスクトップ統合環境]

カタカナ語の末尾の長音符を従前はつけていなかったが, つけるよう変更する方向で検討が進んでいる。また, カタカナ複合語の扱い(中黒で区切る)についても, 検討がおこなわれている。

「GNOME 日本語翻訳チーム参加者ガイド」を作成中である。作成中のものは以下の web サイトで公開されているほか, OSC で印刷物の配布もおこなっている。

<http://www.gnome.gr.jp/l10n/gnomeja-guide/gnomeja-guide.html>

以下, OSC 2011 Kansai@Kyoto にあわせメールで提供された情報

プロジェクト名称:

the GNOME Translation Project 日本語チーム

URL

<http://www.gnome.gr.jp/>

<http://live.gnome.org/TranslationProject>

<http://l10n.gnome.org/teams/ja>

翻訳対象

GNOME の日本語メッセージカタログ、ドキュメント

gnome.org や gnome3.org のコンテンツ

翻訳対象ファイル形式

gettext 形式 (DocBook、Mallard、ウェブも gettext 形式経由)

参加したい場合の連絡先

<http://mail.gnome.gr.jp/mailman/listinfo/gnome-translation>

ちょっとした誤訳の指摘をするときの連絡先

<http://mail.gnome.gr.jp/mailman/listinfo/gnome-translation>

問題点

gnome.gr.jp が半ば放置状態

欲しい人材

査読者

その他なんでも

日本ムードル協会

Moodle[教育, LMS]

日本語翻訳フォーラム

<http://moodle.org/mod/forum/view.php?id=1896>

以下に作業手順の説明がある。メッセージは PHP 配列で、翻訳作業は Moodle を使っておこなうことができる。

翻訳 - MoodleDocs

<http://docs.moodle.org/20/ja/%E7%BF%BB%E8%A8%B3>

日本 NetBSD ユーザーグループ / 名古屋*BSD ユーザーグループ

NetBSD [OS]

NetBSD 関係の翻訳プロジェクトとしては、jman プロジェクトと www.NetBSD.ORG 翻訳プロジェクトがあるほか、個人による翻訳もいくつか存在する。

jman は、オンラインマニュアルの翻訳であり、もとは 1995 年に出版された書籍「NetBSD/X68k (X68k Programming Series)」に収録されたものである。

<http://www.re.soum.co.jp/~fukaumi/ml/netbsd/199512/msg00070.html>

その後も保守・配布されていたが、現在は保守されておらず、配布元の FTP サーバーも停止している。pkgsrc (NetBSD のパッケージシステム) に含まれているので、pkgsrc の distfile として ftp.jp.NetBSD.org などから入手は可能である。jman の成果の一部は FreeBSD jman, Linux JM にも取り込まれている。jman の翻訳の出来がよすぎるために、後継プロジェクトを作りにくい。

www.NetBSD.ORG 翻訳プロジェクトは、日本語での情報提供のために、日本 NetBSD ユーザーグループ発足前の 1998 年から活動している。当初は www.jp.NetBSD.org でだけ成果物が公開されていたが、2000 年に NetBSD.org の CVS リポジトリに取り込まれ、www.NetBSD.org および全世界のミラーサイトで日本語訳が公開されるようになった。その後、日本語以外の翻訳の更新が滞ったことなどから、NetBSD.org では翻訳を中止することを 2007 年に決め、2009 年末にリポジトリからも削除された。

www.NetBSD.org のコンテンツのほかに、パッケージの一行説明、セキュリティー勧告、netbsd-announce メーリングリストの記事の翻訳などをおこなったことがある。また、インストールノートやオンラインマニュアルの翻訳が提案されたこともあるが、おこなわれていない。

これらのプロジェクトのほかに、NetBSD/pc98 でインストーラーのメッセージ翻訳がおこなわれたり、オンラインマニュアル (セクション 9)、The NetBSD guide、NetBSD blogなどを個人的に翻訳している方たちがいる。

プロジェクト名称

www.NetBSD.ORG 翻訳プロジェクト

URL

<http://www.jp.NetBSD.org/ja/JP/Project/www-ja/>

翻訳対象

www.NetBSD.org のコンテンツ

翻訳対象ファイル形式

DocBook/XML

参加したい場合の連絡先

www-changes-ja@jp.NetBSD.org に subscribe

ちょっとした誤訳の指摘をするときの連絡先

www@jp.NetBSD.org(非公開) または www-changes-ja@jp.NetBSD.org(公開)

問題点

以前は NetBSD.org 本家のソースツリーに XML の日本語訳をコミットし、そこで HTML を構築したものを www.NetBSD.org で公開していた (www.jp.NetBSD.org も www.NetBSD.org のミラーだった)。NetBSD.org がすべての翻訳を中止し、翻訳成果物をソースツリーから削除したことから、現在は成果物を公開できていない (8月に入ってから、公開に向けた動きあり)

欲しい人材

NetBSD 時間 (問題解決に何年もかかる) を気にしない方

NPO 法人日本 PostgreSQL ユーザー会

PostgreSQL [データベース]

<http://www.postgresql.jp/document/>

「日本 PostgreSQL ユーザー会 文書・書籍関連分科会は PostgreSQL 関連の文書の翻訳、作成、整備、書籍出版等ドキュメンテーション全般に対して作業を行う目的で設置されました。」とある。

PostgreSQL のリリースごとに、付属ドキュメントの翻訳が公開されている。

日本語ドキュメント

付属ドキュメント: DocBook/SGML で作業、HTML, PDF で公開

JPEG web ページの英訳: HTML

「-----
| 翻訳の文科会で、新リリースが出ると「さあやれ」といったメールが流れる。中心メンバー |
2~3名がほとんどやっているかんじ。

日本 Samba ユーザー会

samba [ファイル共有]

以下、OSC 2011 Tokyo/Spring にあわせメールで提供された情報

プロジェクト名

Samba 翻訳プロジェクト

URL

http://wiki.samba.gr.jp/mediawiki/index.php?title=Samba_%E3%83%89%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88%E7%BF%BB%E8%A8%B3%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88

※短縮 URL: <http://ow.ly/48ipF>

翻訳対象

Samba のアーカイブに同梱されているドキュメントなど

翻訳ファイルの形式

主に XML ファイル (Samba が DocBook を採用しているため)

参加したい場合の連絡先

samba-jp メーリングリストでの参加表明など

ちょっとした誤訳の指摘先など

誤訳の指摘先は言われてみればないかも、です。

問題点

とにかく動けるひとが少ない

昔からやってる人が多いので、たぶんノリややり方が最近の人に受けない&そもそも Samba みたいな基盤系のソフトウェアに興味を持つ人が少なくなってるんでしょうね。

DocBook を採用しているので、ドキュメント生成環境を作るだけでも結構大変

ほしい人

とにかく動けるひと

日本 **Symfony** ユーザー会

Symfony[開発フレームワーク、開発ツール]

日本 Symfony ユーザー会では「公式ブログの翻訳掲載」をずるとしている。

<http://www.symfony.gr.jp/about>

公式ドキュメントの翻訳については、以下のページに説明がある。

<http://www.symfony.gr.jp/docs>

github を使い、ファイル形式は reStructuredText。